

アートバイブル

何恭上編 町田俊之監修 日本聖書協会 2003

アートバイブル2

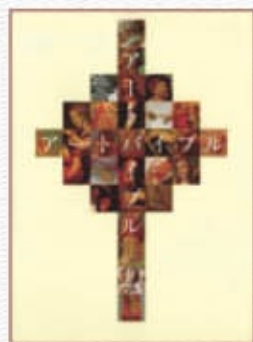
何恭上編 町田俊之監修 日本聖書協会 2008

文学部教授 上村 妙子

美術館に行って西洋の絵画を見ても何が描かれているのかわからない、と感じることはありませんか。それは、西洋絵画の題材は聖書に由来しているものが多く、西洋絵画を理解するには聖書の基本的な知識が前提となってくるからです。

これから皆さんが海外に旅行して美術館を訪れる機会があったとします。その時、「有名な絵」として知られている絵を自分の目で見ることができても、それが何の絵なのかわからなければせっかくの機会を生かすことはできません。

本書は皆さんに聖書と絵画の知識の両方を同時に与えてくれる本です。聖書の本文とその場面を描いた絵画が掲載されています。絵本のように聖書の内容を「見て」、「読む」ことのできるお勧めの2冊です。



出発は遂に訪れず

島尾敏雄著 7刷改版 新潮社 2007 (新潮文庫)

文学部教授 高岡 貞夫

この本は、著者が第二次世界大戦中に海軍で特攻隊の隊長を勤めた体験をもとに書かれた小説である。文学のことはよくわからないが、同じ戦争を題材とした小説でも、例えば大岡昇平の「野火」とは読書の楽しみ方が少し違う。自分は、本当は「野火」のような小説が好きであるが、島尾の文体はどこか中毒性がある、一つ読むとまた別のものが読みたくなる。「魚雷艇学生」、「死の棘」、「贖学生」、「夢の中での日常」と次々と手を伸ばし、気がつけば古本も含めて手に入る小説はすべて読みあさってしまった。そしてついには飛行機とレンタカーと船とバスを乗り継いで、「出発は遂に訪れず」の舞台となった加計呂麻島の呑之浦まで一人出かけるに至った(1)。瀬相港から出る、ドアもろくに閉まらないおんぼろのバスは、行きも帰りも乗客は自分一人。運転手は東京からわざわざ訪ねてきた自分を歓迎しつつ(いや、あきれていたのか...)、同じような中毒患者が時々島を訪ねてくることをうれしそうに教えてくれた。読書は人生を楽しくしてくれる。